

# 一般質問(要旨)

**つくば地区の人口増加に対する県立高校の対応**

**議員** つくば地区は人口増加の一方向、統廃合や募集枠減などにより市内県立高校の選択肢が少なくなっている。進学先確保に向けた周辺高校の募集枠増などの取り組みは。

**教育長** 中学卒業生数の変動に募集学級数の調整で対応しており、つくばエリアではつくば工科高校改編に伴い2学級増やすなど柔軟に対応していく。引き続き多様なニーズに応じた県立高校の魅力化を図るほか、募集枠は志願者数の動向などを注視し検討していく。



星田 弘司 議員  
いばらき自民党  
つくば市選出

**● 質問者**

**3月4日(金)**  
星田 弘司 (いばらき自民党)  
八島 功男 (公明党)  
沼田 和利 (いばらき自民党)

**3月7日(月)**  
玉造 順一 (立憲いばらき)  
山野井 浩 (いばらき自民党)  
水柿 一俊 (いばらき自民党)

**3月8日(火)**  
外塚 潔 (いばらき自民党)  
磯崎 達也 (いばらき自民党)  
山中 たい子 (日本共産党)

**3月9日(水)**  
高安 博明 (県民フォーラム)  
石塚 隼人 (いばらき自民党)  
岡田 拓也 (いばらき自民党)

こちらから録画映像でご覧になれます。▶  
<https://www.pref.ibaraki.jp/gikai/>

**つくば特別支援学校の過密対策**

**議員** これまで対策を講じてきたが問題解決には至っていないつくば特別支援学校の過密状態について、1日も早い解消と教育環境の改善にどう取り組んでいくのか。

**教育長** 児童生徒数が令和6年をピークに増加すると予想されることを踏まえ、令和5年度から利用可能となるよう、校舎を増築することとした。これにより転用教室の解消など、子どもたちの教育環境をより充実したものとしていく。

(ほかに国際会議誘致、国道354号谷田部バイパスなども質問)



校舎の増築が予定されるつくば特別支援学校

**議員** 現下の難局では、国と地方の連携が必要な一方、役割分担で齟齬が生じていると指摘される。地方が輝く時代、知事の国との連携と発信力に期待が高まるが、国と地方の役割について所見は。

**知事** 感染症対応では国と地方が緊密な連携を図りつつも、緊急時においては、地方こそイニシアティブを持つべきと考える。自ら陣頭に立ち対策に取り組むとともに、本県が迅速かつ効果的な対策を講じられるよう国に働き掛けていく。



八島 功男 議員  
公明党  
土浦市選出

**茨城県ケアラ・ヤングケアラ※を支援し、共に生きやすい社会を実現するための条例に基づく取組**

**議員** ケアラやヤングケアラの社会的な認知はまだ高いとは言えず、支援が十分とは言えない。条例の制定を契機として、今後支援に向けてどう取り組むのか。

**知事** 早急に実態調査を実施し、ケアラと支援機関双方の課題やニーズを把握していく。また、県民の認知度向上のため、動画配信や教育現場における広報・啓発に取り組む。さらに、市町村職員などを対象とした研修や情報交換の場の設定などを行う。



沼田 和利 議員  
いばらき自民党  
牛久市選出

**霞ヶ浦の新しい価値創造**

**議員** 霞ヶ浦の未来構想を自由に論じたり、県民が生態系サービスを実感し感謝できるような教育などが必要。霞ヶ浦の新しい価値創造について、どう取り組むのか。

**県民生活環境部長** 生態系サービスの価値を広く伝え、後世に引き継ぐことは私たちの使命。霞ヶ浦環境科学センターを拠点施設として、環境学習の推進や市民活動との連携、霞ヶ浦に関する情報の収集・発信などに取り組んでいく。

(ほかに、成年年齢18歳の権利義務責任、成年後見制度なども質問)



霞ヶ浦と帆引き船

**牛久沼を活用した地域振興**

**議員** 牛久沼の特色を生かした一体感のある環境整備が行われ、より多くの方に牛久沼を訪れてもらいたい。今後、牛久沼を活用した地域振興に、どう取り組むのか。

**政策企画部長** 牛久沼周辺首長会議を母体とする新たな協議会に県も参画し、関係自治体が連携して取り組む。また、県内外から多くの方が訪れるような波及効果の高い取り組みについて応援していく。

(ほかに、県道竜ヶ崎阿見線の整備、国道408号(仮称)岡見バイパスの整備なども質問)



牛久沼を活用した地域振興を

**性的マイノリティ施策の推進**

**議員** パートナーシップ制度の導入自治体間で転居手続きの簡素化の動きが出ている。本県がリーダーシップを発揮し自治体間連携を進めるべきと考えるが見解は。

**知事** 宣誓者の負担軽減や利便性向上のため、自治体間連携を図る。まず本県が主導して働き掛けていく。北関東3県を皮切りに、東京都などの交流の多い大都市圏を中心に連携を加速する。今後も、性的マイノリティの方々安心して暮らせる環境づくりに注力する。



玉造 順一 議員  
立憲いばらき  
水戸市・城里町選出

**オンライン学習への対応**

**議員** オンライン学習などの要請期間中に登校した子どもも理由をどう把握し分析したか。また家庭の通信環境整備にどう対応するか。

**教育長** 登校者のうち家庭の通信環境が整っていない割合は約11%であった。国の補助制度の周知やルーター貸し出しなど事例を共有するほか、国へ予算拡充を要望するなど、環境に左右されず学習できるよう市町村と連携し対応する。

(ほかに、財政健全化の考え方、広域避難計画策定に対する知事の認識なども質問)



児童の様子を見ながらオンライン授業

**「G7関係閣僚会合誘致推進協議会」を設置しました**

2023年に日本で開催される予定の主要国首脳会議、いわゆる「G7サミット」について、現在、茨城県では関係閣僚会合の水戸市開催に向け誘致を進めているところであります。G7関係閣僚会合は、海外の要人をお迎えし、茨城県の魅力を国内外に発信する絶好の機会です。ポストコロナを見据え、観光産業をはじめとする地域経済の活性化にもつながるなど、会合開催は本県にとって大きな意義があるものです。そこで、3月24日の本会議において「G7関係閣僚会合誘致推進協議会」を設置しました。

この協議会では、誘致実現を後押ししていくための県議会としての取り組みなどを協議していく予定です。構成する委員15名は次のとおりです。

委員長	海野 透
副委員長	中村 信夫
委員	白田 信太郎
委員	白井 平八郎
委員	小川 一成
委員	川津 静隆
委員	星田 弘司
委員	金子 晃久
委員	山野井 浩
委員	豊田 茂
委員	村田 康成
委員	齋藤 英彰
委員	高崎 進
委員	玉造 順一

ことば ※【ヤングケアラ】…一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っている18歳未満の子どもを指す概念。